

TQMの管理の考え方・実践がどんなレベルかを評価するもの。

# 管理レベル評価表

評価対象の管理機能名	<ul style="list-style-type: none"> <li>方針管理・品質保証・現場運営管理</li> <li>受注管理・技術開発・人材育成・情報化</li> </ul>
------------	--

どのような機能でも管理の考えは共通している。

承認	作成

評価部署	
評価者	
作成日	199 年 月 日

評価項目	評価内容	評価基準					評価点
		1点	2点	3点	4点	5点	
P 計画策定力	(1) 計画策定にあたり、課題およびねらいが具体的になっているか。	課題設定の根拠が示されていない。	課題設定はあるが目標など明文化されていない。	課題の背景・目標を明文化しているが抽象的。	同左が所定の手続き・周知がない。	課題の背景・目標が明文化され手続を得ている。	1. 2. 3. 4. 5.
	(2) 予測・予防の考えに基づき、問題点を整理しその原因を解析しているか。	現状の問題点を把握していない。	問題点が明文化されず不具合予測もない。	問題点の整理は行ったが解析がされていない。	不具合予測・解析が浅く具体策が不足。	現状の問題点を整理しその原因を解析している。	1. 2. 3. 4. 5.
	(3) 実施事項・予防対策が上記問題点の解決とも整合し具体的になっているか。	現状の問題解決の方策を検討していない。	方策を検討したが具体的に明文化していない。	方策を明文化したが抽象的な内容である。	方策が概ねよいが問題解析との関連が不明確。	課題達成の方策が具体的に解析結果とも整合する	1. 2. 3. 4. 5.
	(4) 到達目標が管理項目と目標値で明確になっているか。	到達目標が明確にされていない。	管理項目・目標値が明文化されていない。	管理項目と方策が整合しない部分がある。	管理項目はよいが目標値に不足がある。	管理項目と目標値を的確に設定している	1. 2. 3. 4. 5.
	(5) 計画書の内容が読みやすく具体的になっているか。	計画書が未作成である。	作成したが計画書の体裁を整えていない。	一応体裁は整っているが記載事項の欠落がある。	必要記載事項は満足するが内容に一部不備がある	5W1H全てに亘って具体的に明記されている。	1. 2. 3. 4. 5.
	(6) 計画書の承認手続きと関係先の周知を図っているか。	計画書が作成者以外に知らされていない。	計画の報告はしているが所定の承認を得ていない	承認を得るまでの内容検討、説明が不足している	所定の手続きで承認を得たが周知が不足している	計画書を所定の手続きで承認し関係先に周知した	1. 2. 3. 4. 5.
						(Pの平均)	
D 実践力	(7) 計画通りの実績が得られたか。	目標に対し大幅に未達であった。	目標達成度が40%程度である。	目標達成度が60%程度である。	目標達成度が70%以上である。	管理項目毎に目標値を十分に達成できた。	1. 2. 3. 4. 5.
	(8) 計画で定めた方策通り実施しているか。	計画が立案のみで実行に移されなかった。	計画とは違った方策を事前検討なく実施した。	事前検討により計画修正をし方策を実施した。	計画通りの方策が一部実施できなかった。	計画で定めた方策通り全て実施した。	1. 2. 3. 4. 5.
	(9) 計画のとおりスケジュールリング・日程で進んでいるか。	計画を無視した日程で行われている。	計画に対し大幅に遅れている。	進捗度合いが40%程度の遅れである。	概ね日程表通り進んでいる。	スケジュール管理され日程表通り進んでいる。	1. 2. 3. 4. 5.
	(10) 業務改善・維持により計画通りのアウトプット（標準類）を出しているか。	業務改善・維持の活動が実施されなかった。	同実施したが具体的なアウトプットがなかった。	アウトプットはあったが計画に不足であった。	アウトプットはあったが内容がまだ不十分である	計画通り管理の標準化に繋がる成果品ができた。	1. 2. 3. 4. 5.
	(11) 実施の記録・ファイリングが分かりやすく整理されているか。	実施結果を示す資料が残されていない。	資料はあるがメモ程度で供覧に促さない。	実施結果を時系列にファイリングしてある。	ファイリングはあるが計画対比が不十分である。	実施結果が計画に対応して明確に整理されている	1. 2. 3. 4. 5.
						(Dの平均)	
C チェック力	(12) 管理項目の実績の目標値対比を定めた頻度でチェックしているか。	管理項目ごとの実績値を把握していない。	目標値との差異が不明確である。	チェック頻度が遅れているが対比している。	目標対比の差異分析の層別が不足している。	定めた頻度で管理項目毎に差異を層別している。	1. 2. 3. 4. 5.
	(13) 計画との差異を解析し対策を立てているか。	目標差異の原因を検討していない。	原因を検討しているが外的要因が中心である。	差異の原因の掘り下げが浅く方策が見出せない。	原因の掘り下げで方策の一部対応できていない。	差異の原因を方策と対応させ十分解析している。	1. 2. 3. 4. 5.
						(Cの平均)	
A 処置力	(14) 計画遅れに対する応急処置を確実にとっているか。	応急処置も取られず放置されている。	処置されてはいるが的が外れている。	処置内容はよいが手遅れになっている。	処置が少し遅れたが実施されている。	問題を認識し処置が迅速確実にされている。	1. 2. 3. 4. 5.
	(15) 計画差異の解析結果に基づいて計画の修正を行っているか。	計画を修正してない。	計画修正したが方策が具体的でない。	方策は明確だが解析結果と整合しない。	方策が具体的だが一部解析結果と整合していない	解析結果に従い新たな方策に計画修正している。	1. 2. 3. 4. 5.
	(16) 上記方策を確実に実施しているか。	方策を実施した記録がない。	対策の実施が一部しかやられていない。	計画修正後の方策の実施が一部不足で遅れた。	方策の実施が一部遅れた。	計画修正後の方策を確実に実施している。	1. 2. 3. 4. 5.
						(Aの平均)	